

小委員会 最終報告書の骨子（案）

0. はじめに

- 本小委員会は、「国土のグランドデザイン 2050」の実現、観光立国の実現、国際競争力の強化等に向けて、自動車行政において速やかに講ずべき施策を整理するとともに、将来を見据え、今後 10 年程度先までの自動車行政の新たな展開の方向性をとりまとめるために設置された。前者については、本年 2 月、「中間整理」としてとりまとめ、公表し、一部については実施の途に就いている。したがって、本報告においては、後者についてとりまとめることを主眼とした。
- 本小委員会は 6 回にわたり会合を重ね、第 3 回小委員会において先述の中間整理をまとめた後、「ネットワーク」、「産業」、「クルマの未来」の 3 つのテーマを設けてワーキンググループを開催しながら、現在の社会における課題を踏まえつつ、「豊かな未来社会」に向けて取り組みを進めるべき内容について議論を深めてきた。
- 本報告書の構成は、現在の社会が抱えている課題の整理に始まり、課題を解決する考え方、自動車をめぐる課題へのあてはめ、今後の具体策という形になっている。

1. 「豊かな未来社会」とは

- 現在の社会が抱えている課題

現在の社会が抱えている課題は多数あるが、主に国内の移動手段として使用される自動車は、自ずと国内的な課題に影響を受けることになる。国内的な課題の中心となる事象は、出生率の低下による人口減少であり、また、同時に、地方圏から都市圏への人口移動により、地域によっては人口減少がかなりの速度で進んでいることである。

人口減少は様々な課題を引き起こすが、特に、需要減少に伴う市場の縮小や、生産年齢人口の減少による生産力の低下が自動車に関連する課題を引き起こすことが予想され、また一部は現実のものとなっている。また、高齢化率の上昇によって、財政負担の上昇や需要減少も起きており、これも自動車に影響を与えている。

一方、自動車製造は重要な産業として、国際的にも確固たる地位を築いているが、激しい競争にさらされているとともに、自動車によってもたらされる環境への影響は、国内を越え広く国際的な課題となっている。こうして、国際的な産業競争力の強化や環境問題への対応なども、自動車に影響を与える。

- 課題解決への考え方

こうした中で、既に提示されている課題解決への考え方もある。例えば、国土交通省が平成 26 年 7 月に策定した「国土のグランドデザイン 2050」では、「基本的な考え方」として、地域構造を「コンパクト+ネットワーク」とすることが掲げられている。また、「多様性と連携による国土・地域づくり」として、地域の主体性を再構築し、その上で複数の地域間の「連携」により、交流を促進することが提示されている。

これらの考え方は、ネットワークそのものであり、「連携」を実現する手段である自動車交通にとっても、課題解決の考え方となりうるものである。

また、地域を支える主体として、自動車に関連する産業は重要な役割を担っているが、平成27年3月に閣議決定された「交通政策基本計画」では、厳しい経営状況にある事業者が中長期的にサービス提供を維持できるようにするため、生産性向上や人材確保も含め、経営基盤の強化策を検討することとされている。

さらに、国際的な課題への対応についても、国土のグランドデザイン2050において、「国際志向」として、さらなる成長のために国際社会での競争を勝ち抜いていく必要があり、積極的に国際社会に打って出て行く方向性が、一方の、自然や地域との触れ合いを大切にする生き方であり、地域を大切にする方向性である「地域志向」という考え方と並存するものとして掲げられている。

○ 「豊かさ」とは

人口減少が引き起こす課題を前提としつつ、目指すべき「豊かな未来社会」がどのようなものであるか、様々な価値観がある中では、1つの価値観に統合、収斂させることは困難である。したがって、地域や世代ごとに有する多様性を生かしていくことを基本的な方向性として考えていく。

2. 「豊かな未来社会」に向けた今後のあり方

- (1) 適切なネットワーク形成
- (2) 産業としての経営基盤強化
- (3) クルマの未来のあり方

3. 配慮すべきこと

自動車をもたらす外部不経済、外部環境を念頭に、今後配慮すべき事項を列挙する。

- 安全の確保
- 環境への配慮
- まちづくりとの連携

4. まとめ